

第4回
キャリア教育アワード
エントリー事例集



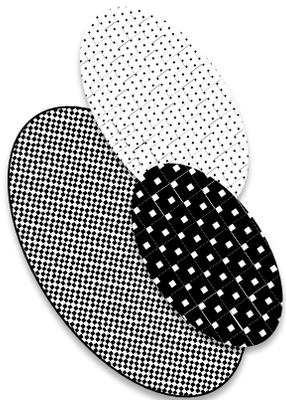
CAREER
EDUCATION
AWARD

経済産業省

大企業の部

もくじ

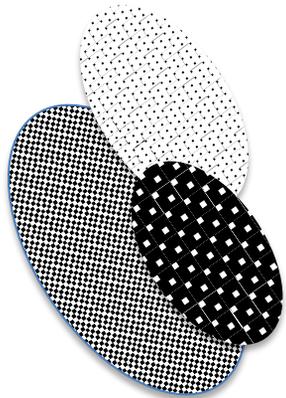
アクセンチュア株式会社 コーポレート・シチズンシップ 「若者の就業力・起業力強化」チーム	1
インテル株式会社	2
NEC	3
NECネットエスアイ株式会社	4
株式会社カプコン	5
株式会社 講談社	6
株式会社 講談社 株式会社エンパブリック	
ハバタク株式会社	7
シャープ株式会社 三重工場	8
株式会社新生銀行	9
積水化学工業株式会社 高機能プラスチックカンパニー 化学教室プロジェクト	10
ソニー生命保険株式会社	11
ダイキン工業株式会社	12
株式会社ダスキン	13
一般社団法人ディレクトフォース	14
テュフ ラインランド ジャパン株式会社	15
一般社団法人電子情報技術産業協会 (JEITA)	16
東京海上日動火災保険株式会社	17
西日本鉄道株式会社	18
株式会社野村総合研究所	19 ~ 21
バイエルホールディングス株式会社	22
日立化成株式会社	23
広島ガス株式会社	24
株式会社三菱東京UFJ銀行	25



中小企業の部

もくじ

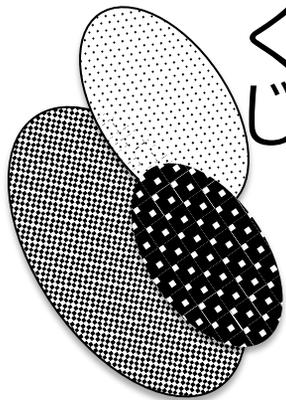
特定非営利活動法人アスクネット	26
石坂産業株式会社 くぬぎの森環境塾	27
岩村田本町商店街振興組合	28
株式会社エイブルジャパン	29・30
SBエナジー株式会社	31
大阪府中小企業家同友会	32
株式会社 光文書院	33・34
特定非営利活動法人国際社会貢献センター	35・36
特定非営利活動法人G-net（ジーネット）	37
公益財団法人損保ジャパン環境財団	38
第2回キッズマートin naha実行委員会（事務局ピーンズ広告社 キャリア教育事業部／協力団体 特定非営利活動法人キャリエイト）	39
株式会社匠工芸	40
名古屋商工会議所	41
公益財団法人 日本財団	42
一般社団法人日本チャレンジ教育協会	43
橋本産業株式会社	44
一般社団法人プラスチック循環利用協会	45
株式会社モチベーションアカデミア	46
株式会社米川兄弟社	47
リエゾン・デートル	48



地域企業協働の部

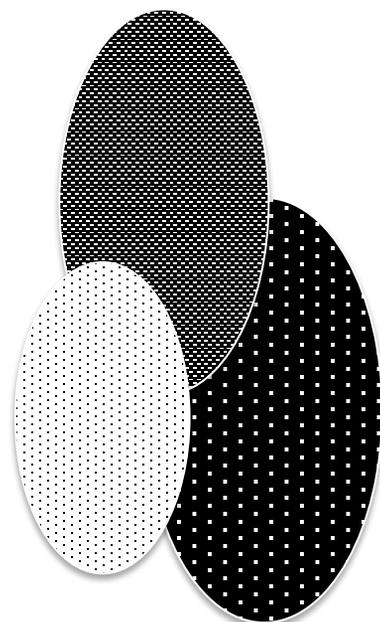
アイシン精機株式会社・アイシングループ	49
一般社団法人 鴨川青年会議所	50
かわさきマイスター友の会	51
株式会社Campanula (カンパニユラ)	52
NPO法人次世代育成フォーラム・リスタ	53
ジョブスタディ (運営事務局:コクヨ株式会社)	54
中高生夢チャレンジ大学実行委員会	55
新居浜商店街連盟・高校生ボランティアサークル	56
西尾信用金庫	57
特定非営利活動法人鳳雛塾	58
株式会社マイナビ	59
一般社団法人宮城県情報サービス産業協会	60

もくじ

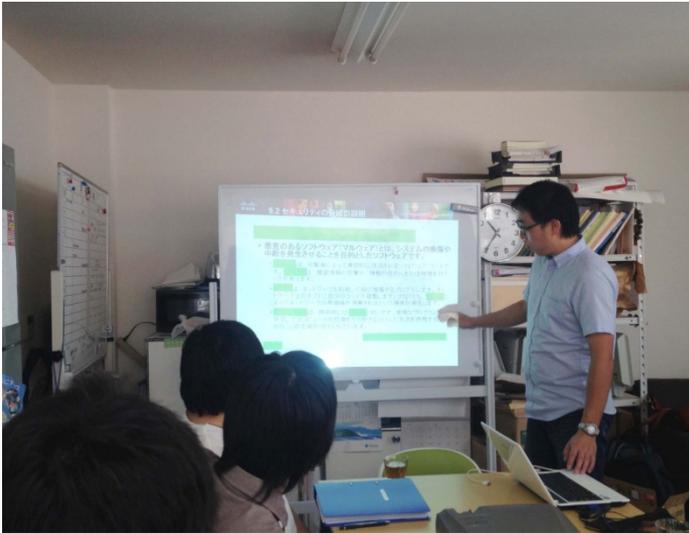


第4回キャリア教育アワード エントリー事例

大企業の部



企業・団体名	<p>アクセント株式会社 コーポレート・シチズンシップ</p> <p>「若者の就業力・起業力強化」チーム</p>
プログラム名	<p>「若者の就業力・起業力強化」プログラム</p>
活動の内容（概要）	<p>現在、日本では若年層（15歳～34歳）の失業率が全体と比べて2倍程度となっており、大きな社会問題となっている。これからの社会の担い手である若者が安定した仕事に就けないことは日本全体のマーケットの縮小につながっていく。これを阻止し、若者が希望を抱けるような健全な社会にするために、若者に就労体験をしてもらい職業観を身に付けてもらう「就労教育」、若者に対するスキル支援を実施し雇用側とのミスマッチを解消する「就労支援」、および若手の起業家を育成し雇用そのものを創出していく「若手起業家育成」、という複数のアプローチを行い、新たなイノベーションによる就労機会の創出を目指す。</p>



「若者のためのIT アカデミー（CTAC：Computing Technology Academy）」の授業風景。IT 基礎スキルや資格取得のみならず、IT そのものに興味を持ってもらえるように、コンピュータの分解・組立やOSの操作などの実習を取り入れている。



Webプラットフォーム：ユース アクティベーション（<http://www.siya.jp/>）の画面。左図の画面は、就労支援・就労教育に関する対策を全国規模で可視化し、それぞれの地域の市民へ情報を提供。右図の画面では、各地域で実施されている取り組みに対し、地域市民が資金支援ができる仕組み（クラウドファンディング機能）を提供している。

企業・団体名	インテル株式会社
プログラム名	インテル® 教育支援
活動の内容（概要）	<p>インテル株式会社では、「21世紀を生きる力を身につけた人材」の育成を目的に段階的なキャリア発達の支援を行っている。教員研修「Intel® Teach プログラム」は全国規模で提供され、受講者による指導を通し研修成果が初等中等教育現場で児童生徒に還元されている。中等教育においては、高校生を対象としたインテル国際学生科学技術フェア（ISEF）を主催、高校生が科学研究を通して世界に触れるための支援を続けている。また、高等教育・社会人教育においては「インテル グローバル チャレンジ」を開催し、初等中等教育段階でのキャリア形成をベースとし、グローバル社会で活躍する人材に、世界の舞台で自身を試すチャンスを提供している。</p>



写真提供：NPO 法人日本サイエンスサービス

インテル国際学生科学技術フェアは2013年に64回目を数える科学技術コンテスト。70以上の国・地域から約1,600名の生徒が参加。本年は日本からは6組8名の生徒が参加し、優秀賞1等及び部門最優秀賞1組1名、特別賞1組2名。日本代表に選ばれた生徒たちは、4日間の事前研修で、研究内容を明確に伝える力、英語でのプレゼンテーション力を身につけ、大会に臨んだ。写真は日本初の部門最優秀賞に選ばれた、田中 堯（ぎょう）さん（千葉県立千葉高等学校）の受賞の瞬間の様子。田中さんは、「今までとった中で最高の賞をいただいたので、これから自分の研究を発展させていくモチベーションになる非常にいい機会だったと思っています。これからも研究は続けていきたいです。」と語った。



インテル グローバル チャレンジはカリフォルニア大学バークレー校とインテルによるコラボレーションとして2005年に創設されテクノロジー分野で世界最大規模の名誉ある起業家コンペティション。2013年の応募数は18,000以上に及び、決勝進出チームは賞金10万米ドルを賭けて、経験豊富な起業家およびベンチャー・キャピタリストへのプレゼンテーションを行う。起業家コンテストに加えて、起業家を支援する数々の活動をプログラムを実施し参加者の学びの場を提供。スタンフォード大学での基調講演のほか、デザイン・ワークショップや起業家による体験談の共有が行われ、3日目はUCバークレー校に場所を移し、ポスターセッションを実施。ジャッジが各チームのポスターを訪れプレゼンテーションを聞いた後、質疑応答によって理解を深めファイナルに出場する8チームを選出。写真は、日本からの参加の1社 株式会社シュアール（ユーザー参加型のオンライン手話辞典「SLinto® Dictionary」の開発）がジャッジに解説をする様子。

企業・団体名	NEC
プログラム名	NEC森の人づくり講座
活動の内容（概要）	<p>環境問題の解決について関心を持つ学生を全国から募り、環境教育について学びながら、森と学生をつなぎ学生同士の輪も広げる講座を体験し、将来、環境に関連した仕事に携わる人材となるきっかけを提供する3泊4日の人材育成講座で、年2回開催している。課題作文の選考を通過した学生20名（年間40名）は2つのコースに分かれ、森づくり、インタープリテーション（※）についてそれぞれ学ぶのに加え、環境教育を通じた復興支援を行っている方との意見交換や、被災地にドングリの苗を送る活動にも協力し、講座の長年のテーマである「森の人づくり」の講座の中で復興支援についても考える。また、2つのコースと復興支援の現場をスカイプでつないで交流する時間や、環境とITの可能性を考えるワークショップの時間を設け、インターネットを活用した活動も組み込んでいる。</p> <p>※インタープリテーション：自然・文化・歴史（遺産）を分かり易く人々に伝えること。自然についての知識そのものを伝えるだけではなく、その裏側にある「メッセージ」を伝える行為。</p>



Aコース：オークヴィレッジ／森林たくみ塾（岐阜県高山市）では、森で木を伐り、手でモノをつくりだすという具体的な実践活動を通して、これからの森と人との関わり方について考える。写真は自分たちの手で切り倒した木。このあと丸太にし、ナタで割り、カンナで削って箸を作る。



Bコース：キープ・フォレスターズ・スクール（山梨県北杜市）では、自然と人、人と人をつなぐ“インタープリテーション”の考え方や手法を学びながら、より良いコミュニケーションのあり方を考える。写真は参加学生オリジナルの環境教育講座実施の様子。グループごとに実施・参加し、互いの講座を評価し合う。

企業・団体名	NECネットエスアイ株式会社
プログラム名	出前授業 南極くらぶ
活動の内容（概要）	当社は、地球に興味をもち、環境を大切にする心を養うべく、2013年1月より、南極越冬隊経験者の社員を講師として、地元文京区の小学校をはじめ、墨田区の小学校や岩手県の被災地の小学校などで「南極くらぶ」を開催している。授業では、南極へ砕氷して向かう「砕氷艦しらせ」の勇姿や、オーロラ・気候・動物などの自然科学や越冬隊の生活について、動画や音声を交えて紹介している。その他にも「マイナス30度でシャボン玉を作る」といった南極の気候を生かした実験クイズで科学の楽しさを学び、実際の南極の氷や防寒服の体験も実施している。



南極体験コーナーでは、実際の南極の氷を児童に配り、コップに入れた氷に水を入れることで、数万年前の気泡がはじける音を聞いたり、越冬隊員が着用した防寒具（防寒帽、手袋、防寒服、防寒靴）を体験してもらった。

児童は、初めて触る南極の氷に感動し、いつまでも氷をつかんでいたり、防寒服の意外な軽さに驚いたりしていた。授業終了後には国立極地研究所が発行する南極についての小冊子を配布して、授業の内容を振り返ってもらった。



質問コーナーでは、たくさんの児童が手を挙げて、質問をしてくれた。

1～2年生から

- ・雪は何m積もりますか？
- ・ペンギンは何匹くらいいるのですか？

3～6年生からの質問

- ・南極の12月はどんな季節ですか？
- ・地球温暖化の影響にはどのようなものがありますか？

低学年と高学年で出てくる質問の違いはあるが、児童が興味、関心をもち、疑問をもつことが大切な一歩。

企業・団体名	株式会社カプコン
プログラム名	カプコンの教育支援活動
活動の内容（概要）	「企業訪問の受け入れ」と当社社員を学校などへ派遣する「出前授業」の2つの方法で教育支援を実施している。主に「ゲーム会社の仕事」の紹介を通じて、会社の多くの人の思いや努力、協力によって1つの仕事が完成するという意識付けの他、ゲーム開発者へのインタビュー映像を交え、仕事のやりがい、面白さ、難しさを伝えることにより、より具体的な就労感の提供に努めている。また、テレビゲームとのより健全な付き合い方ができる知識と能力を身につけてもらうため、「ゲームリテラシー」教育も併せて提案している。なお2013年度より、ゲーム会社で使用される算数や数学を題材にした、カプコンお仕事×算数・数学授業の運用を開始した。



2013年11月6日、野田市の木間ヶ瀬小学校の6年生30人を対象に、算数・数学を用いた教育支援プログラムを実施。算数問題のパートでは、先生のヒントを借りながらも、クラス全員正解できた。授業後の感想では「仕事には責任があることが分かった」、「仕事では学校の勉強が重要と聞いたので、これからも勉強を頑張りたい」など、仕事の大変さを認識すると同時に、前向きな意見が多く寄せられた。



2013年11月21日、カプコンの東京支店にて土浦第一中学校の中学2年生9名を対象に、キャリア教育支援のプログラムを実施。授業を受けた生徒からは、「ゲーム会社の中だけでも色々な仕事があり、多くの人関わっていることが分かった」「学校の勉強が将来役に立つことが分かった」など、それぞれに職業に対する気づきを感じられた。

企業・団体名	株式会社講談社
プログラム名	Rikejo プロジェクト (冊子 Rikejo 及び Rikejo Q&A WEB サービス)
活動の内容 (概要)	Rikejo プロジェクトでは、我が国における経済・産業振興の要の人材とされている理系女子を支援することを目指し、様々な活動を行っている。中でも、理系を目指す女子中高生に対しては、彼女たちの理系進路選択を応援する会員サービスを展開。具体的には、まだまだ少ないとされる理系女性のロールモデルを様々な業界や分野に着目して紹介していく冊子「Rikejo」の製作及び配布(約12000人の中高生会員、及び全国の中学校・高校へ隔月で配布)、または、先輩リケジョ(女子理系大学生・大学院生、社会人によるメンター会員)が女子中高生の悩みに回答するWEBサイトの運営等を行い、理系女性の生き方に対する興味関心を喚起している。

冊子「Rikejo」は、理系女性のロールモデルを多数紹介し、中高生の理系進路選択や将来設計のビジョンを見つけるヒントを提供している。また、身近なサイエンスや技術を伝えたり、ヒット商品の裏にある理系女性の活動なども紹介することで、理系の職業に対する興味・関心を喚起している。

Rikejo Q&A サイト (<http://www.rikejo.jp/faq/>) では、メンター会員(先輩リケジョ：理系女子大学生や大学院生、社会人)が、女子中高生の理系進路選択に関する相談や質問などに、自らの体験や専門をベースに回答。先生や親、友人にも相談・質問できないことも投稿できるサイトとして、リケジョのリアルを伝えるサイトとして好評を得ている。

<p>企業・団体名</p>	<p>株式会社講談社 株式会社エンパブリック ハバタク株式会社</p>
<p>プログラム名</p>	<p>Rikejo プロジェクト (イベントサービス)</p>
<p>活動の内容 (概要)</p>	<p>Rikejo プロジェクトでは、我が国における経済・産業振興の要の人材とされている理系女子支援の一助となることを目指し、理系女性のロールモデル集である冊子 Rikejo 及び理系進路に関する Q&A WEB サービスに加え、リアルにキャリアを学ぶ場をイベントやワークショップといった形で提供。2013 年度は、①大学生・大学院生向けイベント：ダイバーシティ経営 100 選企業の先輩リケジョに聞く！「リケジョが働きやすい職場って？」、②実践型キャリアプログラム（私立成立学園中学・高等学校）③先輩リケジョによる進路相談会（Rikejo の進路紹介及び相談会）、④ Rikejo 社会見学バスツアー（日立製作所見学及び東北大学 100 周年イベント参加）を実施した。</p>
	<p>◆大学生・大学院生向けイベント：ダイバーシティ経営 100 選企業の先輩リケジョに聞く！「リケジョが働きやすい職場って？」：経済産業省ダイバーシティ経営 100 選の企業（日産自動車、NTT データ、TOTO、花王、キリン）の理系女性をゲストに、イベントを開催。各ゲストのお話に加え、働くを考えるワークショップ及び学生と社会人の交流会を実施した。（講談社にて）</p>
	<p>◆私立成立学園中学・高等学校との「実践型」キャリア教育の取り組み：全国の学校から好評の Rikejo の会員誌をキャリア教育用に再編集した教材を使用したワークショップの他、Rikejo 事業の改善をテーマにした「リアルな仕事をしよう」プロジェクト、大学を訪問しレポートをまとめる「大学百科をつくろう」プロジェクト等、3 学年にわたる長期のキャリア教育デザインを支援している。</p>

企業・団体名	シャープ株式会社 三重工場	
プログラム名	地域高校との連携によるキャリア教育支援	
活動の内容（概要）	<p>シャープ三重工場が地域貢献活動の一環として工場周辺(多気町、大台町、松阪市、伊勢市、津市)に所在する就職比率が高い農業系、商業系の高校6校と連携してキャリア教育支援活動を実施している。</p> <p>これらの学校は地域の中小企業への就職が多く、就職してからの環境教育はほとんど実施されていないことから、学生のうちに社会人として最低限の環境知識と企業目線での環境問題を考えることのできる能力を身につけてもらう授業を実施。授業は就職を控えた3年生を中心に、環境について様々なテーマで講義を行い、環境問題について考えてもらうことを目的に年間5回程度の授業を実施している。また、環境授業とは別に自身の進路を決める年度はじめには、企業からみた進路先についての講義や就職試験解禁日直前には就職試験についての講義、卒業直前には社会人としての心得などのキャリアアップ講座を実施している。</p> <p>これらの授業を1校あたり年間8回程度実施することで、幅広い目線で考えられる人材になってもらいたいと考えて活動を行っている。</p> <p>各学校からは、学校では教えることができない企業目線での授業はこれから社会人となる生徒にはとても有益であると高く評価していただいていることはもちろんのこと、生徒からも他の学校では受けることができない授業であると好評。</p>	
	工場近くにある三重県立相可高校での授業風景	
	三重県立飯南高校での授業風景	

企業・団体名	株式会社新生銀行
プログラム名	金銭基礎教育プログラム「MoneyConnection®」
活動の内容（概要）	<p>昨今、就学、就労、職業訓練のいずれも行っていない「ニート状態」にある若者の存在が社会問題となっている。ニート状態に陥る原因の一つに「お金に関する正しい知識や金銭感覚の欠如」があることに着目し、特定非営利活動法人育て上げネットと新生銀行グループが共同で開発した、主に高校生を対象とする日本初のニート化予防を目的としたプログラム。</p> <p>生きていくために必要となるお金や物の価値について考え、多様化する雇用形態や、働き方による生活スタイルの違いを知り、より長期的な視野で「お金」と「人生」について考える機会を提供する。</p>



ワークショップ型のプログラム。通常、1グループ4～6人程度で進行する。

講師(教室中央)は主に進行管理、情報提供者としての役割を担う。

講師と連携して生徒をフォローするのがファシリテーター。社員ボランティアの活躍の場でもある。

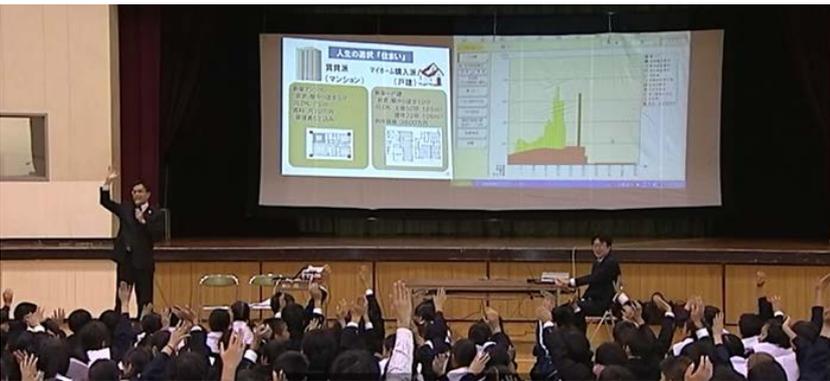


講師運営マニュアルでは、板書のタイミング、内容、説明手順も明示している。

それによりクラス毎に担当講師が異なる場合も、同じ情報を提供することができる。

こうした点が教員による家庭科、公民科など教科授業に連携させやすいと評価されるようになった。

<p>企業・団体名</p>	<p>積水化学工業株式会社 高機能プラスチックカンパニー 化学教室プロジェクト</p>
<p>プログラム名</p>	<p>積水化学 化学教室プログラム</p>
<p>活動の内容（概要）</p>	<p>積水化学工業株式会社 高機能プラスチックカンパニー 化学教室プロジェクトでは、研究所の地元中学校を対象に「出張授業『化学教室』」を、各地域の工場を中心に「子ども向け地域イベント」を実施している。</p> <p>出張授業は、教員と研究所員が協働で、単元と連動したわかりやすいプログラムを開発し、化学分野では中1（3時限）、中2（2時限）、中3（2時限）を、生物分野では中2（1時限）を実施している。</p> <p>出張授業、地域イベントのいずれであっても、企業ならではのオリジナル実験や社員講師からの解説を通じて、化学への興味・関心を高め、理科学習と社会とのかかわりを実感できる内容をめざしている。</p>
	<p>●地域イベント 「われない?! 不思議なしゃぼん玉」 水に溶ける性質のプラスチックがあることを演示で示す様子（アメリカでの教室にて）</p>
	<p>●出張授業 中学1年生 理科 「プラスチックを調べよう」 プラスチックの種類と、その性質について確かめる実験の様子</p>

企業・団体名	ソニー生命保険株式会社	
プログラム名	ライフプランニング授業	
活動の内容（概要）	<p>仮想の家族を想定して、みんなでその家族のライフプランニングを考える、ワークショップ型の授業。現役のライフプランナーが関わることで、ライフプランニングの楽しさ（ゲーム性）だけでなく、現実のライフプランを考えるリアリティ（現実性）も受講者に提供している。当社独自のシミュレーションソフトを活用し、ライフプランという長期的なスパンから、仮想家族の将来の収入や支出を検証することで、自分の人生を俯瞰的の捉える視点を養い、来るべき人生の選択をどのように考えるのか、その結果、いかにして将来の夢を実現させるのか、といったテーマについてもヒントを得ることができる。受講者からは「人生の計画を立てる大切さ」「日々の過ごし方を見直したいという気持ち」「親への感謝の気持ち」が感想として多く聞かれる。</p>	
		<p>《グループワーク形式》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに、仮想家族のライフプランを考えていく。1枚の大きなライフプラン表を作成する。生徒たち全員で家族の夢や、やりたいことを出しあったのち、決めたこと書き込んで、シールを貼り、夢をどんどん「見える化」していく。
		<p>《大教室形式》</p> <p>全体で、仮想家族のライフプランを考えていく。いくつかの選択肢から、グループで話し合いをしながら、選択のポイントなど、理解を深めていく。</p>

企業・団体名	ダイキン工業株式会社	
プログラム名	環境教育プログラム「サークル・オブ・ライフ」	
活動の内容（概要）	<p>ダイキン工業では、「森は地球のエアコン」という考えのもと、国際NGO「コンサベーション・インターナショナル（CI）」と協働し、インドネシアの森林再生プロジェクトに取り組んでいる。</p> <p>次世代を担う子どもたちに、現地での取組みを通じて、世界で起きている環境問題と自分との「かかわり」に気づき、考えることの大切さを伝えたいという思いから、このプロジェクトを題材に、生物多様性をテーマとした環境教育プログラム「サークル・オブ・ライフ」を作成し、小中学校に無償で提供している。</p> <p>このプログラムは、世界の森林問題、特にインドネシアの森林再生に向けた取組を題材とし、生き物と環境との「かかわり」、世界の環境問題と日本に住む私たちの生活との「かかわり」、世界の環境問題と日本に住む私たちの生活との「かかわり」について焦点を当て、子どもたちの気づきを引き出すように構成されている。</p> <p>また、発展授業として、企業講師による出張授業と組み合わせる事ができる。</p>	
	<p>「世界で起きている環境問題が、私たちの生活にもかかわっている」ことの「気づき」を子どもたちから引き出す「思考支援型」プログラム。世界の森林問題をテーマに、国際理解や他社理解を目的とする授業や、私たちの生活と環境問題の関連に焦点をあて、自分にできることについて考えを深めていく授業。</p> <p>授業1：生き物と環境とのかかわり 授業2：森林問題と私たちの生活とのかかわり 授業3：森林問題をめぐる人々とのかかわり 授業4：環境問題と私たちとのかかわり</p> <p>写真は、授業3の森林会議ロールプレイを行っている様子。インドネシア政府、環境活動家、インドネシアで林業で生計をたてている人、日本の消費者、日本政府の5つの立場に分かれ、それぞれの視点から、インドネシアの木を切ることに賛成か反対かの意見を出し合う。森林問題をめぐってさまざまな立場の人たちが存在し、それぞれに意見が異なることを考えさせる。</p>	
	<p>発展授業（オプション）の企業講師による出張授業</p> <p>「ものづくり企業の環境取組み」をテーマに、ダイキン工業の環境への取組みをクイズ形式で紹介し、働く大人たちが行っている工夫を知らせることで、子どもたち自身も環境に役立つ工夫ができることに気づかせ、実際の行動へとつなげてもらう。</p>	

企業・団体名	株式会社 ダスキン	
プログラム名	学校掃除教育支援活動 ～みんなでつくろう キレイをいっしょに～ 	
活動の内容（概要）	<p>ダスキンでは「喜びのタネをまこう」の経営理念を実践し、「お掃除の会社」として、お役立ちできる教育貢献活動に取り組んでいる。</p> <p>「掃除の大切さを次世代を担う子どもたちに伝えたい」「掃除を通して子どもたちの力を伸ばしたい」そんな想いを込めて、</p> <p>①小学校対象の出前授業 キレイのタネまき教室「そうじについて学ぼう！」</p> <p>②教員向けセミナー「子どもたちの力を伸ばす学校掃除セミナー」を実施。</p> <p>学校掃除サポーター制度という社内研修制度を取り入れ、ダスキンファミリー（本部と加盟店）で取り組む掃除教育支援活動。</p>	
	<p>子どもたちが家庭生活の中で、掃除についてあらためて考えるきっかけになり、また掃除への興味・関心を持ち、掃除の大切さを理解してもらう授業。</p> <p>【一部】どうして掃除をするのだろうか</p> <p>【二部】正しい掃除用具の使い方の二部構成。</p> <p>講師にぞうきんの握り方から指導してもらっている。</p>	
	<p>①学校掃除に関する基礎知識を学ぶ ②掃除実習を体験 ③掃除の教育的効果を考え ④掃除教育カリキュラムを紹介 ⑤掃除活動計画を考える</p> <p>学校掃除に関する基礎知識や指導方法などを学んでもらう。どうやって子どもたちに、ぞうきんの絞り方を説明すると理解してもらえるか。体験しながら考え、情報共有する。</p>	

企業・団体名	一般社団法人 ディレクトフォース
プログラム名	授業支援の会
活動の内容（概要）	<p>ディレクトフォースは約600名の元上場企業の役員が構成する団体であり、この中でキャリア教育に関心を持つ約20名が、主に高等学校を中心に「グローバル化の中で考えるあなたの未来」「大学後の社会、働く事を考える」などを中心に、若者の将来へ参考となる講話を実体験に基づき実施している。</p> <p>2013年は既に21校を越える実績があり、講演方式も通常の講話に加えパネルディスカッションやワークショップなど学校側の希望に沿って内容と共に工夫している。また講演後も追加質問があればこれのフォローも行っている。</p>



（東京都立昭和高校パネルディスカッション 2013年7月8日 福生会館



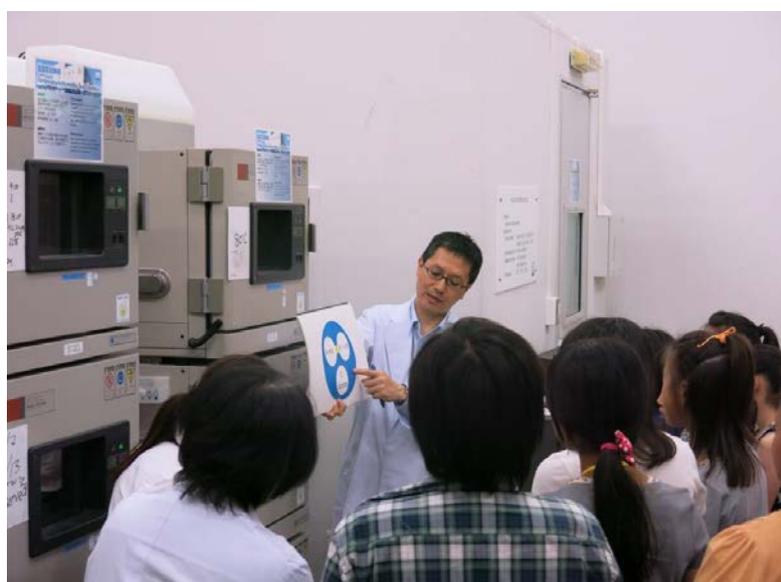
千葉県立君津高校での講演
2013年11月11日 体育館

企業・団体名	テュフ ラインランド ジャパン株式会社
プログラム名	夏休みガールズデー ドイツの会社でセーフティーエンジニアを体験しよう！
活動の内容（概要）	小学校6年の女子生徒20名を招待し、ボランティアとして参加いただいた電気通信大学の学生4名とともに、製品安全、安全検査について学び、体験していただいた。製品安全ラボ見学では、エンジニアが多種多様な安全試験装置を子どもたちに紹介。また、「新しいベビーカー開発」をテーマにしたワークショップを行い、お母さんが階段を簡単に登れるようにタイヤをキャタピラーにする、太陽光で動く扇風機を搭載するなど、斬新なアイデアが沢山発表された。その後、見学した安全試験装置を使った安全検査の計画を立てるなど、一歩踏み込んだワークショップとなった。



《講義の様子》

テュフ ラインランド ジャパンの社員から製品安全について、講義を受けた。ヘアドライヤーを例として、製品安全のための検査（温度が上がりすぎないようになっているか、指が入らないか、取扱説明書は適切か、ラベルはすぐに消えないかなど）が説明された。



（製品安全ラボ見学の様子）

安全ラボ見学では、1時間かけて、11箇所の安全試験施設を見学した。そのうち、3つの試験施設では、実際に試験のデモンストレーションが行われた。

企業・団体名	一般社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）
プログラム名	中学生・高校生のためのIT・エレクトロニクス講座
活動の内容（概要）	<p>中学生・高校生に、IT・エレクトロニクス産業の概要や魅力、身近な製品の仕組み等について楽しく学んでもらうことにより、理数系の勉強の重要性について一層理解してもらおうとともに、「ものづくり」の楽しさを伝え、IT・エレクトロニクス産業に対する興味を持ってもらう内容となっている。また、「科学やものづくりの楽しさを伝えたい」、「理数系離れを何とかしたい」、「理系・文系の進路決めのカキカケを与えてあげたい」など、学校側からの様々な要望に答えている。</p>



芝浦工業大学柏中学高等学校(千葉)の授業風景(2013年7月17日)

中学3年生及び高校1年生を対象に、数学の授業で習う方程式や三角関数などがエレクトロニクスの仕事でどのように使われているのか、ロボットの実例を踏まえながら説明。



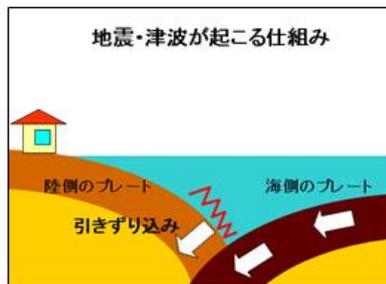
自由が丘学園高等学校(東京)の授業風景(2013年10月23日)

高校1年生を対象に、今後の進路選択を決めていく中、理系と文系の違いや、メーカ（製造会社）の仕事の内容・目的などを説明。

企業・団体名	東京海上日動火災保険株式会社
プログラム名	「ぼうさい授業」
活動の内容（概要）	「ぼうさい授業」は、東日本大震災で得た教訓を次世代の子どもたちに伝えるための、東京海上グループ社員および代理店のボランティアによる、小学生向けの防災意識啓発プログラム。グループ会社の社員有志が教材を開発し、東京海上日動が産学連携協定している東北大学災害科学国際研究所・地震津波リスク研究部門の監修を受けている。授業の中では、地震や津波が発生するメカニズムを学習したり、クイズやグループディスカッションを交えながら、地震発生時に身を守る方法や、非常持ち出し品などの事前の備えについて考え、「生きる力」を身につける内容となっている。2012年度は全国36校の小学校で実施し、約2,400名の生徒が授業を受けた。



「ぼうさい授業」の実際の実施風景。スライドを使用しながら数名の講師により、知識の伝達だけではなく、クイズや話し合いを交え、楽しみながら授業を進める。



「ぼうさい授業」で使用しているスライドの一部。地震・津波のメカニズムをなるべく平易に説明したり、生徒が防災について自発的に考えるきっかけとなるよう工夫している。東北大学災害科学国際研究所の監修をいただいている。

企業・団体名	西日本鉄道株式会社
プログラム名	にしてつキッズしごと体験スクール
活動の内容（概要）	<p>小学生を対象に、夏休みの期間中に、西鉄グループの多様な職業プログラムを親子（小学生1名と保護者1名の親子ペア）で体験していただく活動。多くのお子さまに“働く楽しさ”を学んでいただくとともに、当社グループが展開する事業への興味や理解を深めていただくことを目的とし、2009年から実施している。</p> <p>シミュレータを使った模擬運転、実際の交通機関を活用した車掌業務や整備、一般のお客様を相手に行う接客や販売など、各グループ会社の社員が行っている日常業務を体験していただく。</p> <p>開始以来プログラムの拡充に努め、2013年は21クラス（93組186名様）を実施。</p>



【電車運転士クラス】

教習所にある本物と同じ車両を使い、実際の業務と同じ目線に立って、実際に自分の目で、ホームの安全確認をしているところ。このほか、シミュレータを使った模擬運転も体験してもらう。電車の運行に関わる多様な業務経験を通じ、日々何気なく乗っている電車の安全が多くの人の努力によって保たれていることを教え、働くことに対する意識変化につなげていく。



【電車整備体験クラス】

筑紫工場で、実際に車両を使用して検査を体験しているところ（機器の操作も行った）。検査体験の前には、工場の概要説明を行い、電車の安全運行を支える車両整備の重要性について学んでいる。説明にあたる社員の、整備に対する真剣な姿勢を肌で感じてもらうことで、お客様の命をあずかる仕事の大変さとともに、やりがい気付くきっかけづくりを意識している。

企業・団体名	野村総合研究所
プログラム名	NRI IT 戦略体験プログラム
活動の内容（概要）	<p>●目標</p> <p>①中高生の職業観は身近な会社や職業（BtoC）に限られていることが多いが、企業や官公庁が顧客の会社（BtoB）が世の中に多く存在していることを知らせ、職業選択の幅を広げる機会を提供。②情報サービス産業やシステムエンジニア（SE）に対する職業としてのイメージ向上を図る。</p> <p>●概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象：中学3年生～高校3年生（チーム対抗ワークショップ） ・所要時間：2時間 もしくは 3時間 ・ストーリー：情報システムを活用することにより、架空の中堅コンビニチェーンの利益を向上させ、業界トップクラスを目指す。利益向上に資する施策として「顧客数を増やす」、「商品の在庫数の精度を上げる」、「無駄なコストを削減する」の3タイプの情報システムカードを与え、限られた予算・条件の中で、最適なバランスを考えた情報システムを選択する。さらに、「お弁当発注クイズ」で、より精度の高い発注数（品切れ、廃棄が少ない数）を競う。 <p>最後に、社会インフラとしてあらゆるところで情報システムが活用されていることや、SEの仕事の魅力を伝える。</p>



ルール説明の後には、生徒主体でゲームに取り組む。質問は随時受け付ける。初めは座っていた生徒も、議論が活性化してくると立ちあがり肩を寄せ合い知恵を出し合う。



チーム対抗でカードゲームに取り組む。異なる学校の生徒達も、はじめはぎこちないが議論しながらゲームを進めるうちに自然と一体感が出てくる。（3校合同で実施したケース）

企業・団体名	株式会社野村総合研究所
プログラム名	便利を支える情報システムの秘密
活動の内容（概要）	<p>生徒がスーパーマーケットの1日店長となり、売上が落ちてきているお菓子売り場に、どんな新商品をおくべきかを考えるグループワーク形式の授業。6つの新商品候補の商品特性が書かれた「定性情報」カードと、スーパー来店者層（性別/年代別）、新商品候補の性別/年代別売れ筋情報の「定量情報」カードから、売れそうな商品を予測する。</p> <p>レジ（POSシステム）が単にお金を計算しているだけではなく、マーケティングに必要な情報が情報システムによって「自動処理」され、スーパーの売上向上に寄与するデータに「見える化」されるプロセスを実感し、情報システムの有用性を理解する。</p>



①
 班ごとに、発表シートをまとめる様子。売れそうなお菓子と、なぜそれを選んだのか、理由を発表する。
 理由の裏付けを説明するために定量情報カードを計算したり、発表シートに記入をしたり、それぞれ役割分担を決めて、グループワークに取り組んでいる。



②
 システムエンジニアの社員講師（正面左）による授業。
 写真は、定量情報カードをどう活用したら良かったのか、答え合わせの解説。生徒とコミュニケーションをとりながら進めている。講師にはマニュアルを用意し、進行サポート役のCSR担当社員、初めての社員でも参加しやすい体制。

企業・団体名	株式会社 野村総合研究所
プログラム名	NRI 未来創発キャンパス
活動の内容（概要）	<p>野村総合研究所（NRI）の企業理念は「未来創発」。社会をしっかりと見据えながら確かな未来を切り拓いていきたいという私たちの想いを表している。未来を切り拓いていくためには、次代を担う若者たちが、未来や働くことについて真剣に議論することが大切だと考えている。</p> <p>そこで、NRIは大学生・大学院生を対象とした「NRI 未来創発キャンパス」をスタートさせた。第2回の開催となる2013年は、「2030年に向けた未来のつくりかた」をテーマに、NRI社員による講演や、来場した学生たちとの対話により”未来のつくりかた”を会場一体となって考えた。</p> <p>大阪と東京の2か所で開催し、両会場合わせて約400名が参加。</p>



【第二部トークセッションの様子（大阪会場）】
 事前に配布した質問カードを第一部の講演終了後に回収し、いくつかの質問をモデレータが取り上げて議論。写真は、質問カードを書いた学生が、質問について補足説明をしている様子。



【第二部トークセッションの様子（東京会場）】
 事前に配布した質問カードをモデレータによるYes/NO形式の質問に対して、事前に配布したうちわを掲げて、回答している様子。

企業・団体名	バイエル ホールディング株式会社
プログラム名	ふしぎからはじまるサイエンス 「わくわく実験びっくり箱」
活動の内容（概要）	ドイツに本社を持つ化学・医薬会社のバイエルは発明指向のグローバル企業として、子どもたちの科学への興味と理解を深める教育プログラムを世界各地で展開している。日本では2003年から毎年、小学生を対象に科学の発見や面白さを伝える体験・質問型理科実験教室「わくわく実験びっくり箱」を開催しており、2014年で12回目を迎える。この活動は、バイエル社員がボランティアで全国の小学校を訪れ、身近な材料を使って生徒と一緒に楽しく理科実験を行うものである。実験を通して「なぜ」「どうして」という子どもたちに本来備わっている科学への好奇心を呼び覚まし、科学への理解力を高めることを目的にしている。これまでに計29都道府県39校を訪問し、日本のバイエルにおけるCSR活動の柱の一つとなっている。



2013年6月27日茨城県水戸市立城東小学校『「ポン菓子」作りでわかる！空気と水の不思議』

講師役のバイエル社員が、空気や水の「状態」と「圧力」や「温度」との関係について、いくつかの小さな実験を通して説明をしている様子。

授業の最後には、全国でも有数の米どころである茨城ならではの「米」を使い、空気と水の温度変化によって生じる圧力の性質を利用したポン菓子づくりを体験した。



2013年7月9日沖縄県糸満市立喜屋武小学校『炭酸ガス風船で学ぶ二酸化炭素とサンゴの秘密』

重曹とレモン果汁で炭酸ガスを発生させて、風船をふくらませる実験を行っている様子。

その他、沖縄の子どもたちにとって身近なサンゴが二酸化炭素を取り込む性質があることを理解する実験などを行った。サンゴの地球環境への役割を学ぶとともに、生物と地球温暖化・環境問題について学んだ。

企業・団体名	日立化成株式会社
プログラム名	夏休み親子化学実験教室
活動の内容（概要）	日立化成では、社会貢献ポリシーとして定める「次代を担う人材の育成」の柱として、理科教育支援活動を実施している。子どもの理科離れが社会的に問題視される中、化学系企業の特徴を活かして、子どもたちに理科や化学の楽しさを伝え、探究心を育て自発的な学習を促すことが目的。毎年夏休みには各事業所の近隣小学生などを招き、60分の化学実験と工場見学を実施している。講師は日本化学会に所属する現役の化学教師。2009年より親子合わせて約1800名が参加しているほか、低年齢向けの通年ミニ実験として「子どもふれあい科学実験」も2012年度より実施し、延べ2500名以上が参加している。



ふしぎはっけん！ためしてみよう
かがくじっけん Vol.1 より
「ひんやりつめたい」

尿素と水を利用して、ひんやり冷たくなる冷却パックをつくる実験。化学反応により温度変化が起こることを理解し、帰宅後もさまざまな物質で試して、不思議を発見することも狙っている。



ふしぎはっけん！ためしてみよう
かがくじっけん Vol.1 より
「しゃぼんだまをうかべよう」

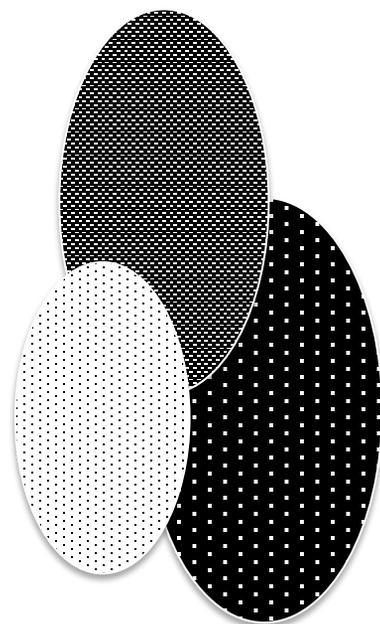
クエン酸と重曹を反応させて二酸化炭素を発生させる。二酸化炭素をためた容器にシャボン玉を浮かばせることで、目に見えない気体の重さを実感させる実験。子どもたちがチームとなって、実験を進めていく。

<p>企業・団体名</p>	<p>広島ガス株式会社</p>
<p>プログラム名</p>	<p>次世代教育プログラム 子どもエネルギーACTION !!!</p>
<p>活動の内容（概要）</p>	<p>広島ガスでは地域貢献活動の一環として、「エネルギー環境教育」「食育」「火育」を中心に、行政・教育委員会・学校・エネルギー業界などと連携し、子どもたちの「？」を「！」に導くべく、体験重視の次世代教育活動に積極的に取り組んでいる。ベーシックな活動として、広島県内の小学校・中学校・高校など、さまざまな年代を対象に、習熟度に応じて選択いただける出張授業を実施。また、その発展型として、小学生を対象とした、学習指導要領に捉われない高度な理科講座を実施する「スーパーサイエンスミュージアム」を展開するなど、幅広い学習プログラムを推進している。</p>
	<p>出張授業「サイエンスショー」の授業の様子。</p> <p>液化天然ガスの特性を学ぶために行う液体窒素の冷熱実験で、児童が花を凍らせる実験を体験している。この他に、風船を液体窒素に浸けて風船内の気体→液体→気体に変化する様子や、ボールやバナナを凍らせる実験により、物質がどのように変化するかなどを学ぶ。</p>
	<p>「スーパーサイエンスミュージアム」講座の様子。</p> <p>自分で製作したロケットを、火薬燃料を利用して打ち上げ、落下傘を開かせて風の向き・強さを考慮して打ち上げた地点に落下させる実験。状態が良ければ、100 m程度上空まで打ち上げられ、体験を通してロケット工学の基礎を学習する。</p>

企業・団体名	株式会社三菱東京 UFJ 銀行	
プログラム名	大学生向けキャリア教育セミナー「企業が求める人材像とは」	
活動の内容（概要）	<p>平成 24 年 2 月より半年毎に、学生の「就業力強化」、「社会人基礎力の育成」を主眼に、当行取引先企業の経営層をパネリストに招き、「キャリア教育セミナー」を開催している。学生にとって、人事担当者による会社説明会等の機会は相応にあるが、社長を始めとした経営層の生の声や熱いメッセージを聞く機会はそう多くなく、「今後のキャリアを考える機会になった」、「今から取組むべきことについて気付かされた」といった学生からの感想が寄せられている。招聘対象は必ずしも大企業ばかりではなく、「個性有る優良中小企業の存在に気付く場にもなっており、”企業規模による就職希望のミスマッチ” 解消にも資すると考えている。</p>	
		<p>就職活動とは一線を画するセミナーながら、学年問わず意識の高い学生が多数参加し、熱心にメモを取って聴講している。</p>
		<p>グループコンサルティングファームのチーフコンサルタントによる「社会人としての心構え」と題した基調講演。引続きパネリスト企業経営層による企業活動紹介と、「求める人材像」「学生時代をどう過ごすべきか」といったテーマでのパネルディスカッションを実施。</p>

第4回キャリア教育アワード エントリー事例

中小企業の部



企業・団体名	特定非営利活動法人アスクネット	
プログラム名	「マイチャレンジインターンシップ」	
活動の内容（概要）	<p>「愛知県下の高校生を対象とした公募型インターンシップ」</p> <p>夏休みの2日間～5日間、愛知県内の高校に通う生徒70名程度が様々な業種・職種でインターンシップを体験。また、半日をかけて事前・事後学習も行う。この学習の時間は、生徒同士の意見交換の機会も設け、各自がインターンシップに目的を持って積極的に取り組めるようプログラムしている。これは、動機付けの他、自立した進路選択と目的意識を持った進学を目指し、高校生活をより充実したものにしようとするもの。また、インターンシップ実施中には、ご担当者へのインタビューの機会も設け、その仕事に就いた経緯ややりがい、失敗談、夢なども同いより濃密な接点を持たせている。同事業では、成功体験ばかりを求めているわけではない。「失敗」からの学びにより、生徒たちが実社会と改めて向き合い、自らの資質・能力をより高め、将来を考えるきっかけとするものである。</p>	
	<p>【パリジャン・パーペチュアル／パティシエ／3日間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来、パティシエを目指す山田さん。 <p>写真は、同店で人気の白桃のケーキの飾り付けについて指導を受けている場面。製菓の技術はもちろん、挨拶や、お客様の好みを知るために店頭での販売も経験し、幅広く学んだ。</p> <p>【生徒感想】社長の伊藤さんの座右の銘は「何でも聞け、何度も聞くな」です。人生の先輩の言葉は、心に響きました。</p> <p>【事業所担当者感想】</p> <p>単調な作業でも最後まで取り組む姿勢にとっても好感が持てました。</p>	
	<p>【有限会社ケイフィールド／IT関連／3日間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Unityを使用して、スマートフォン用のゲームを作成。1日目は、会社やお金の流れについてもお話いただいた。 <p>【生徒感想】最初は難しそうで、分かるはずないと思いましたが、簡単なことから一つずつ教わってオリジナルのゲームを作成。出来たことをほめられ、自信ができました。宿題に追われる毎日ですが、将来を見つめる機会になりました。</p>	

企業・団体名	石坂産業株式会社 くぬぎの森環境塾
プログラム名	環境教育「体験の機会の場」 —3R 体験と昔の暮らしオモシロ体験—
活動の内容（概要）	<p>MOTTAINAI の 3R 体験と自然の恵みと昔の暮らし体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆石坂産業株式会社のくぬぎの森環境塾は、埼玉県から環境教育などによる環境保全の取組みの促進に関する法律第 20 条第 1 項の規定による“体験の機会の場”として認定を得ている。 ◆くぬぎの森環境塾は、持続可能な社会構築を目指し、環境と社会、経済及び文化とのつながりやその他環境保全について理解を深める体験型学習を無料で提供するもの。 ◆プログラムは R 体験教室・森の体験教室・昔の暮らし体験教室での見学やワークショップを通して、“教えるのではなく”自らが“五感を通し”、多様性・相互性・有限性・公平性・連携性・責任制などに“気づきや発見”を促すことを目的としている。



プラント施設内 「3R 教室」
窓越しに電気で動く大型のショベルカーや家の基礎のコンクリートがダンプから降り、鉄筋コンクリートを大きなハサミで碎いている作業や手選別している作業を見ている。子供たちに「何に生まれ変わる?」「現場を見て環境に良い取組みを発見しよう!」と課題を与え環境への気づきや発見を促している。



三富今昔語りべ館内 「昔の暮らし体験教室」
石臼を使ったキナ粉作り体験を行っている。石臼は反時計回しだが、大豆と石臼を置いておくだけで、使い方は一切教えない。グループ単位で話し合いながら考えて行動することを促している。(事前にアレルギーについて調査し、アレルギーのある子には食体験はさせない)

企業・団体名	岩村田本町商店街振興組合	
プログラム名	商店街初！岩村田商店街が実施する、 支援の必要な子供たちのための自立支援プログラム	
活動の内容（概要）	<p>当組合には直営の自立学習型の学習支援施設「岩村田寺子屋塾」（幼稚園の年長生から高校生）及び、学校法人鹿島学園高等学校通信制の佐久サポート校という機能がある。その2つの機能を駆使して、不登校、引きこもり、発達障害など様々な問題を抱える子供達の「自立を促すプログラム」として、策定。</p> <p>1、基礎学力支援（個々の能力に合わせた学習支援）・・・岩村田寺子屋塾で実施 対象：支援の必要な 小中高生</p> <p>2、自立のための就業支援プログラム・・・ 対象 支援の必要な高校生または16歳以上の方</p> <p>①ビジネスマナー習得支援・・・商店街にあるマネージメント会社で指導 電話対応、接客位の基本などを地域にいるプロのマネージメントから学ぶ。</p> <p>②就業支援 能力や個性に応じた「就業体験」を実施して、「自分でできる」を体感させて自信をつける。状況が許せば、そこでの非常勤雇用機会を作っていただく・・・商店街の各店舗で実施</p> <p>③商店街のイベント参加プログラム 商店街で実施する様々なイベントに参加させることで、色々な場面に遭遇させ自分の能力を実感させ、「できる」自信をつけさせる。</p> <p>3、通信制高校での履修を通して高校卒業資格を取得させる。 以上のプログラムを通して、高校卒業の社会への自立を「地域コミュニティ」として支援する。</p>	
①		<p>①7月祇園祭での出店風景。 子供相手のヨーヨーつりを担当、収益で自分たちのオリジナルポロシャツを誂えた。</p>
②		<p>②就業体験 商店街の酒蔵がもつ、芋畑での収穫作業。</p>

企業・団体名	株式会社エイプルジャパン
プログラム名	Learning Recruiting
活動の内容（概要）	<p>本プログラムは、大学生を対象としたPBL（課題解決型学習）である。</p> <p>設定された課題に対して、参加者がチームを組み、課題解決に必要な情報を収集し、課題解決の方法を考え、課題の提供者である企業に対してプレゼンテーションを行い評価を得る、という流れで構成されている。</p> <p>当社が提示した「学生の目線に立った会社案内を作る」という課題に対し、参加者は学生の視点でどのような情報が欲しいか、さらに、誰がその情報を持っており、どのように質問すれば回答が得られるかを考え、当社社員にインタビューを実施した。その上で、実際の会社案内の紙面イメージを作成し、当社社員にプレゼンテーションを実施した。</p>



説得力のある主張をするには、どのような構成にすれば良いのか学ぶ参加者。

講師：伊達洋駆氏
（株式会社ビジネスリサーチラボ 取締役/神戸大学大学院）



当社社員（奥側）にインタビューする参加者。

企業・団体名	株式会社エイプルジャパン
プログラム名	私たちの「みらい」プロジェクト
活動の内容（概要）	<p>本プログラムは、大学生を対象としたPBL（課題解決型学習）である。</p> <p>設定された課題に対して、参加者がチームを組み、課題解決に必要な情報を収集し、課題解決の方法を考え、課題の提供者である企業に対してプレゼンテーションを行い評価を得る、という流れで構成されている。</p> <p>今年度の「若者が証券会社に講座を開きたくなるポケットティッシュを作る」というテーマに対して、全19名の参加者が、合計12回約33時間のプログラムを通して、アンケートやヒアリングを用いて若者の意見を収集し、具体的なポケットティッシュのデザインを考え、課題提供者である某証券会社に対してプレゼンテーションを実施した。</p>



プレゼンテーションを実施するにあたり、聞き手が何を求めているのか、ふせんを用いてブレインストーミングする参加者。



最終プレゼンテーションにおいて、企業（当社・某証券会社）および約300名の学生の前でプレゼンテーションする参加者。

企業・団体名	SB エナジー株式会社
プログラム名	未来×エネルギー プロジェクト
活動の内容（概要）	<p>「未来×エネルギー プロジェクト」は、未来を担う子どもたちが主体的かつ創造的にエネルギーを考えるための環境学習プログラムです。ソフトバンクグループで自然エネルギー事業を行うSB エナジーが、自社の太陽光発電所設置地域と連携し地元の小中学校から実施している。</p> <p>プログラムは2つのステップに分かれている。ステップ1は、児童が主体的にエネルギーを考えるきっかけづくり。まずは動画教材でエネルギーへの関心を喚起している。次いで iPad を使って身の回りにおけるエネルギーの写真を撮るなど、行動しながら学んでいる。ステップ2はグループワーク。チームで新しいエネルギーを考え、その取り出し方や活用法についてまとめ、発表する。</p>



iPad 利用の様子
 動画を見て、身の回りにおけるエネルギーについて自由に書き出している。その後、「校庭や学校の中にあるエネルギーを探そう！」というお題のもと、iPad を使って、児童たちが教室を飛び出し、思い思いのエネルギーをカメラに収めている。



プレゼンテーションの様子。
 グループで協力しながら、発表シートを作り上げ、クラスの前で発表している。

企業・団体名	大阪府中小企業家同友会
プログラム名	大阪府下の高校とのキャリア支援活動
活動の内容（概要）	大阪府中小企業家同友会は大阪府下（府立・市立）の高校とのキャリア支援活動を実施している。内容は、生徒たちを対象にしたキャリア支援授業がひとつ。5～7名程度の生徒たちと1～2名の経営者が一つのグループになり、「働くことの意義について」などのテーマについてグループ討論をする。働くことに対する意識を高め、仕事や企業について考え、自らの将来像を積極的に描く機会を与え、主体的な職業選択の力を養うことなどを目的としている。生徒だけではなく、進路指導の先生方や校長先生方との勉強会・懇談会などにも力を入れており、企業と学校の双方からの情報発信に努めている。



2012年6月29日、平野高校において大阪府中小企業家同友会の会員企業の経営者22名が100名の第3学年の就職希望者に対しキャリア支援授業を行った。単なる講演という形はとらず、少人数のグループで討論することで、生徒にも積極的に話をさせ、生徒の声を引き出すことで就職に対する前向きな意識を引き出していこうという狙いで実施した。



2013年6月28日、府立高校の校長先生40名、大阪府中小企業家同友会の会員企業の経営者40名が出席し、鼎談例会を開催した。校長先生からキャリア支援授業とデュアルシステムの報告がなされ、同友会の赤石氏からは地域づくりの運動であるとともに社会教育運動であることを指摘されました。「人育て」を共通の課題に学校と企業の連携強化を確認する場となった。

企業・団体名	株式会社 光文書院
プログラム名	ドリルってどうやってつくっているの？ ～教材をつくる仕事を知り、「働くこと」に興味をもつ～
活動の内容（概要）	<p>「ドリルってどうやってつくっているの？」は、光文書院が2012年度からスタートさせた小学校向けキャリア教育の出張授業プログラムである。ふだん使っているドリルなどの教材が子どもたちのもとに届くまでにはどんな仕事があるのか、またどんな思いで仕事をしているのかを、体験活動や映像を交えながら学ぶ45分のプログラムとなっている。「それぞれ仕事の内容は異なっているけど、よい教材をつくるためにみな共通の思いをもって仕事をしている」ということを伝え、「ものづくり」や「働くこと」への興味をもってもらうきっかけにしている。</p> <p>小学校向けの教材を企画発行している企業として、少しでもたくさんのお子どもたちと接し、先生の立場を体感したいと、部署を越えて多くの社員が参加を希望し、授業を実施している。</p>



2013年夏に都内の小学校の夏期講座で授業を行った。ドリルの紙面をみんなで見て、どうしたらもっと使いやすくなるかを発表し合う場面。複数の学年をまたいだ授業だったが、多くの子どもたちが積極的に発言していた。



「製作の人になってみよう」という体験では、3種類の紙の中から、ドリルの紙面にふさわしい紙を選ぶという活動を行う。書きこんでみたり、やぶいてみたりしながら紙を選ぶことで、「使う人が気持ちよく最後まで使ってくれるドリルを作りたい」という思いで仕事をしていることを知ってもらう。

企業・団体名	株式会社 光文書院	
プログラム名	大学向け出張授業 「光文書院の教材学」	
活動の内容（概要）	<p>「光文書院の教材学」では、未来の教員に教材の役割や特長を伝え、教材を通じて子どもが学ぶことを楽しめる授業づくりを支援することを目的としている。教員志望の大学生が教員になったときに役立つ「教材の使い方」などについて、わかりやすく楽しく学べるよう、授業を工夫している。</p> <p>（例）・教材を自由に手に取って見て気付いた点を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員になったつもりで児童の答案を採点する。 ・デジタル教材の活用法を実際に操作しながら体験する。 <p>受講学生からは、「教員になった時に役立てたい」「日本の教育は、教員だけでなくさまざまな仕事の人に支えられていることがわかった」など、仕事に対する視野を広げた未来への前向きな感想が寄せられている。</p>	
	<p>教材を手に取って見る学生と質問に答える社員</p> <p>※テスト、漢字・計算ドリル、資料集など幅広い教材を持参し、自由にてもらいます。社員が輪の中に入り、双方向の授業を心掛けています。</p>	
	<p>教員になったつもりで児童の答案を採点する学生</p> <p>※実際に採点をすることで、評価規準や観点の重要性を学ぶことができます。</p>	

<p>企業・団体名</p>	<p>特定非営利活動法人 国際社会貢献センター (NPO Action for a Better International Community : 通称 ABIC)</p>
<p>プログラム名</p>	<p>豊富な国際ビジネス経験に基づいた 大学・大学院講座</p>
<p>活動の内容（概要）</p>	<p>ABIC の多彩な活動の中の一つに、大学・大学院での講座提供がある。商社、製造、金融、情報等々、様々な分野の出身者である ABIC の活動会員が“豊富な国際ビジネス経験”に基づき、それぞれの得意分野、専門性を生かして国際情勢等に関する授業（海外地域論や各種産業論等）を展開している。“グローバル社会に向けての対応力向上に配慮した講義”や“世界情勢を知り、学びの必要性を理解させる内容の講義”を提供している。講義の企画は大学や大学院からテーマを指定される場合と、ABIC の大学講座コーディネーターが講義内容を提案する場合がある。オムニバス方式や、一人で講座を受け持つ、専任教員の講座を補完する、日本語と英語で同じ内容を講義する等、ニーズに応じた柔軟な対応が可能である。</p>
	<p>立命館アジアパシフィック大学での講義風景</p> <ul style="list-style-type: none"> • 講座名：“Global Automobile Industry”
	<p>創価大学経済学部での講義終了後の ABIC 講師と受講生のーコマ</p> <ul style="list-style-type: none"> • 講座名：“Japan Asia Studies Program Business and Japanese People”

<p>企業・団体名</p>	<p>特定非営利活動法人 国際社会貢献センター (NPO Action for a Better International Community：通称 ABIC)</p>	
<p>プログラム名</p>	<p>小中高校生向け「国際理解教育」 (海外各国及び海外関連テーマ別出前授業)</p>	
<p>活動の内容（概要）</p>	<p>ABIC の多彩な活動の中の一つに、文部科学省の指導の下、2001 年度から始まった国際理解教育を支援するため、同年度から小・中・高等学校の「総合的な学習の時間」等で、児童・生徒に世界各国の事情を分かり易く紹介する出前授業がある。商社等出身の ABIC の活動会員が、“豊富な国際ビジネス経験・駐在経験”に基づき、“世界情勢を知り、学びの必要性を理解させる授業”、加えて“グローバル社会に向けての対応力向上に配慮した授業”を提供している。</p> <p>年に一度の授業でも、あるいは年間授業計画に組み込まれた複数回の授業でも、または全校生徒を体育館等に集めた講演会形式のものでも、学校の要望に応じて講座を提供している。</p> <p>上記の一環として、毎年夏休み期間中に関西学院大学並びに青山学院大学との共催で、1泊2日の「高校生国際交流の集い」を日本の高校生と来日中の外国人留学生を招聘して実施している。日本の若者が、グローバル社会へ踏み出す機会作りの一端を担っている。</p>	
	<p>新宿区立戸山小学校での出前授業風景（小6、79名）</p> <ul style="list-style-type: none"> 講座名：「スコットランドの生活と文化」 	
	<p>青山学院大学との共催による第6回「高校生国際交流の集い」、終了時の参加者全員のスナップ</p> <ul style="list-style-type: none"> 大テーマ：“Dive!! -to discover something new-” <p>（参加者：日本人高校生 20名／4校、外国人留学生 18名／10ヶ国、指導大学生 11名。 於：丸紅研修所）</p>	

企業・団体名	特定非営利活動法人 G-net
プログラム名	ホンキ系インターンシップ（長期実践型インターンシップ）
活動の内容（概要）	1ヶ月半～6ヶ月の長期にわたり、魅力的な地域の中小企業経営者のもとで実践型の就業体験をする「現代版弟子入り」プログラム。実践型であることにこだわり、インターン生には企業の新規事業など、いちプロジェクトを担ってもらう。地域に愛着を持ち、地場産業・中小企業への関心が高く、そして何よりも主体性をもった前向きな若者を育てることを目的としており、参加学生は自ら設定した目標への挑戦、また受入企業での実践的な仕事へのコミットを通して、主体的な思考、行動特性を身につけることができる。インターン期間中には、多くの「仕事を楽しむ」「挑戦しつづける」大人との出会いがあり、それが自らの職業観や人生観を考えるきっかけにもなっている。



インターンフェアの様子：受入企業経営者によるプレゼンテーション

単なる企業紹介だけでなく、インターン生に任せるプロジェクトの内容、またそのプロジェクトを担う学生への期待を経営者自らプレゼンテーションする。



受入企業例：山川醸造株式会社
学生：沖侑香里（愛知大学）

（インターン期間：2011年3～9月）

伝統の醤油蔵元でファン拡大に向けて取り組むインターン。インターン全国大会（地域仕事づくりチャレンジ大賞2012）にも出場し優秀賞を受賞。

企業・団体名	公益財団法人 損保ジャパン環境財団
プログラム名	CSOラーニング制度
活動の内容（概要）	<p>大学生・大学院生が環境分野のCSO（Civil Society Organization=市民社会組織；NPO・NGOを含む）で8ヶ月間の長期インターンシップに参加する制度。関東・関西・愛知・宮城の4地区35団体で57名が参加、派遣先団体は自然保護活動のほか再生可能エネルギー・地域コミュニティー・教育・国際協力や中間支援組織を含む。活動1時間あたり800円の奨学金（返済不要）と交通費を支給し、継続的な学びの機会を提供。派遣先でのインターン活動のほか、経験を振り返る「定例会」を毎月開催、また「全国合宿」では全ての参加者が自分の課題に向き合い目標設定を行う。当制度は2000年度より開始し、14年間累計の参加者数は計783名。環境関連企業や非営利組織に就職し活躍している者も多数輩出している。</p>



制度の一環として、インターン派遣先団体の一つであるNPO法人アサザ基金と協働で耕作放棄地再生の取り組みを行っている（所在地：茨城県牛久市）。派遣先団体に関わらず全てのCSOラーニング生が参加できる体験型の学びの機会として、田植えや稲刈りなどの作業を学生自身の企画により実施。収穫したお米を使い「つながりの輪風せんべい」を作り、地域や自然の魅力伝える活動も行っている。



「第1回全国合宿（8月開催）」の様子。全国のラーニング生が集まりお互いの経験をわかちあうと共に、自分自身の課題を発見し、その後に向けた目標設定を行う機会として開催。プログラムは他にNGO職員や財団役職員によるレクチャー、OBによるトークのほか、ワールドカフェ形式による参加型ディスカッションや、仕事の成果を高めるためのビジネスマナー・ビジネススキルのレッスン等により構成し、意欲と能力を高める機会となっている。

企業・団体名	株式会社 匠芸
--------	---------

プログラム名	地場産業を生かした職業体験学習と技術科の授業
--------	------------------------

活動の内容（概要）	<p>日本の家具五大生産地の1つである旭川は、家具製造業をはじめとする木材加工の企業が多数あり、以前より、地元産業の概要を伝えることや、後継者育成、ものづくり技術伝承の観点から、教育機関との連携が強く求められていた。</p> <p>そこで、中学校技術科の木材加工の実習を、地場産業である家具製造業の会社で行うことで、地場産業について知る機会になると同時に、地元で育まれた技術の一端を、地元の次世代を担う子どもたちに伝えることができると考えた。また、単なる技術科の授業とするだけではなく、キャリア教育の一環である職業体験学習とすることで、地元の未来を担う子どもたちに、仕事のやりがいや楽しさ、厳しさや辛さを伝えることができ、社会的・職業的自立に向けたキャリア教育になるとも考えた。</p>
-----------	---



平成24年7月18日(水)に行った「職業講話(家具屋さんの仕事と、家具屋さんの求める人材)」の一コマ。

この講話の中で、どのような気持ちで職業体験を受け入れているか等の話をしたことにより、子ども達だけでなく、保護者や先生方とのより良い関係を構築できた。



職業体験学習の一コマ。

職業体験学習後半(3日目)に入り、実際の商品となる品物の仕上げ作業に携わっている。(※子ども達による作業の後は、自社従業員による最終仕上げ工程を行っている。)

職業体験学習前半の失敗の許される材料とは違い、より一層の緊張感を持った作業となっている。

企業・団体名	<p>団体名：第2回キッズマート in naha 実行委員会 事務 局：ビーンズ広告社キャリア教育事業部 協力団体：特定非営利活動法人キャリエイト</p>
プログラム名	<p>第2回キッズマート in Naha</p>
活動の内容（概要）	<p>今回のキッズマートは、仕入企業（商品を安価で提供）、協賛企業（協賛金・物品を提供）、支援団体（収益を支援金として譲渡される NPO 等団体）が子どもたちと協同し、「子どもたちが社会の担い手として明日をつなぐ～ 社会循環プログラム～」として、社会的に「支援される側」の子どもや障がい者、弱者といった人々が「支援する側」になることを目的とした。</p> <p>自己有用感に目覚めた子どもたちが自分の役割と社会に参画する意義を感じ取り、子どもたちの変容が、大人の心を突き動かす。キッズマートの継続支援の原動力である「感動」を求め、子どもたちと社会との架け橋を作るべく確実に進化を続けている。</p>



キッズマート終了後、参加した全員で記念撮影。

キッズマートの児童・生徒、社会貢献活動をする5団体の皆さん、子どもたちを見守ってくれたメンターの方々、そして実行委員とで手作り横断幕をバックに。



10時から14時までの4時間で、仕入れた2万円分の商品を完売するため、大声を出して必死に売り込む子どもたち。

売れ行きが悪い時は、自ら売り子となってお客さんに必死にアピール。

企業・団体名	名古屋商工会議所
プログラム名	名古屋商工会議所冠講座
活動の内容（概要）	<p>本所では、当地の強みであるモノづくり産業や街の魅力づくり等に寄与する都市型産業振興策の一つとして次代を担う学生に同分野への就業促進ならびにクリエイティブな発想法の醸成等を目的とした講座を平成20年度から開講している。</p> <p>特徴は、協力校の名古屋市立大学以外でも県内大学の学生であれば誰でも受講(2単位付与)できることや、本所のネットワークで依頼した産業界や行政等の第一線で活躍中の講師が様々なテーマで1コマずつ担当する多彩な講義内容にある。25年度は「式年遷宮」や「震災復興支援」、「ロケーションナビ」等の講義もあった。</p> <p>受講者からは「女性の働き方に自信が持てた」や「実際の仕事があった」等の評価を得ている。</p>



若手の女性建築家、吉野純子氏の講義。

日常の仕事の様子や育児などの家事との両立等について、具体的な事例や画像を多く交えて紹介して頂いた。

受講生には女子学生も多く、「女性の働き方としてあこがれる」などの声が聞かれた。



リノベーション(住宅性能向上のための大改修)の講義で、学生たちが実際にリノベーションのプランを考えている様子。

作業しにくい環境であったが、全員、真剣に取り組んでいた。

受講後の感想で、建築関係以外の学生からも、「初めての経験だが面白かった」などの好評を得た。

企業・団体名	公益財団法人 日本財団
プログラム名	Social Action Program
活動の内容（概要）	<p>日本、そして地球上に溢れる課題は、行政、企業、自分ではない誰かが解決してくれるものではなくなった。ときに自分自身が課題の一因を担っていることがある。今、社会が必要としているのは、自らが変化となり、課題を解決していける人たち。</p> <p>「Social Action Program」は、長年、国内外で社会課題の解決に取り組んできた当財団のノウハウとネットワークを活かしたプログラム。子どもたちが、【Feel】自ら社会の課題に気づき、【Think】その解決方法を模索し、【Act】実際に活動を計画、実践し、【Share】その成果と変化を共有するという4ステップをプログラム化。教えるプロである学校と社会課題解決のプロである当財団が協働し、「問題解決力」を身につけ、社会のために具体的に行動できる次の世代を育てることを目的としている。</p>



社会課題を考えるワークショップ。ブレインストーミングの手法を使い、1グループ100個の社会課題を考えさせる。この中から自分たちで解決に取り組む課題を決め、アクションプランを立てていく。



大学生がファシリテーターとして入り、課題解決に向けて、ディスカッション。大学生が入ることにより、一人一人の生徒の意見を引き出し、話しやすい雰囲気ができ、よりより課題解決方法が生まれる。大学生にとっても、社会課題解を考えるきっかけとなり、同時にファシリテートする力も身に付く。

企業・団体名	一般社団法人日本チャレンジ教育協会
プログラム名	チャレンジカッププログラム
活動の内容（概要）	<p>本プログラムはチャレンジを通して「自ら課題、目標を見出し、それを実現に導く力」を育むことを狙いとしている。生徒は事前に自己分析や社会調査を実施し、その内容をもとに、最も必要だと考えるチャレンジを設定する。そして、実際の活動を通じて、PDCA や問題解決、仲間との関わりなどについて学んでいく。</p> <p>こうした「実践」を通じて、社会人として必要な能力・態度を身につけていくことが本プログラムの特徴。チャレンジ終了後には、振り返りを行い、活動を通じての学びを発表にまとめる。特に素晴らしい活動をした生徒は審査を経て、全国大会（グランプリ決定戦）にて多くの観客の前でプレゼンテーションを行う。</p>



女子野球部全員で、手話を覚えて応援に来てくれている保護者に御礼を伝えることにチャレンジ！

写真は部活の合間で実施した手話の練習の風景。

この活動を通してチームワークが格段に上がるとともにさらに応援の輪が広がった。



チャレンジカッププログラムの全国大会の様子。

大勢の観客と審査員を前に、自分たちで考え、練習に練習を重ねたプレゼンテーションを行った。

企業・団体名	橋本産業株式会社
プログラム名	nEQアセスメントを活用した社会人基礎力の向上
活動の内容（概要）	<p>インターンシップ実習の受け入れを通して参加学生に社会人基礎力の向上を促している。参加学生はただ単にインターンシップ実習に参加するのではなく、2週間の実習の成果を目に見える形にしたのが、実習前と実習最終日に行うnEQアセスメント。実習前のアセスメント結果を見て、自分自身何が強みでさらに伸ばすか、何が弱みで改善するか、を書いて自覚させるところから始まる。毎年8月に15大学15名の学生を受け入れ、5名1グループ計3グループにスケジュールを分けて指導した。実習の1週間は配送センターでのデリバリー業務。営業を縁の下で支える無くてはならない裏方の役割で、仕事において、間違わないことが当たり前の「責任」を体感してもらう。翌週は本社でワーク中心。今までほぼ経験のないスピーチや傾聴の重要性、またグループワークを通してチーム（組織）においての協調性やリーダーシップ、メンバーシップ、フォロアーシップを学んでもらう。</p> <p>最終日に全メンバー集合とし、nEQアセスメントの比較や学生同士の交流を目的とした同期会を結成し、プログラム終了となる。</p>

様

総合EQ得点	範囲	項目	点
1	自己対応能力	自己対応力	6
2	他者対応能力	他者対応力	6
3	社会性	社会性	6
4	積極性	積極性	6
5	自己調整能力	自己調整能力	6
6	自己調整能力	自己調整能力	6
7	自己調整能力	自己調整能力	6
8	自己調整能力	自己調整能力	6
9	自己調整能力	自己調整能力	6
10	自己調整能力	自己調整能力	6
11	自己調整能力	自己調整能力	6
12	自己調整能力	自己調整能力	6
13	自己調整能力	自己調整能力	6
14	自己調整能力	自己調整能力	6
15	自己調整能力	自己調整能力	6
16	自己調整能力	自己調整能力	6
17	自己調整能力	自己調整能力	6
18	自己調整能力	自己調整能力	6
19	自己調整能力	自己調整能力	6
20	自己調整能力	自己調整能力	6
21	自己調整能力	自己調整能力	6
22	自己調整能力	自己調整能力	6
23	自己調整能力	自己調整能力	6
24	自己調整能力	自己調整能力	6
25	自己調整能力	自己調整能力	6
26	自己調整能力	自己調整能力	6
27	自己調整能力	自己調整能力	6
28	自己調整能力	自己調整能力	6
29	自己調整能力	自己調整能力	6
30	自己調整能力	自己調整能力	6
31	自己調整能力	自己調整能力	6
32	自己調整能力	自己調整能力	6
33	自己調整能力	自己調整能力	6
34	自己調整能力	自己調整能力	6
35	自己調整能力	自己調整能力	6
36	自己調整能力	自己調整能力	6
37	自己調整能力	自己調整能力	6
38	自己調整能力	自己調整能力	6
39	自己調整能力	自己調整能力	6
40	自己調整能力	自己調整能力	6
41	自己調整能力	自己調整能力	6
42	自己調整能力	自己調整能力	6
43	自己調整能力	自己調整能力	6
44	自己調整能力	自己調整能力	6
45	自己調整能力	自己調整能力	6
46	自己調整能力	自己調整能力	6
47	自己調整能力	自己調整能力	6
48	自己調整能力	自己調整能力	6
49	自己調整能力	自己調整能力	6
50	自己調整能力	自己調整能力	6

自分に関する気づきの記録
【自己分析表】

この記入票は、先に行った自己分析のためのアセスメント(nEQ)の結果を整理して、その特徴を記入します。

1 あなたの総合EQ能力を4領域別に見た場合、高得点の2項目と低得点の2項目を記入しましょう。

自己 対応 能力	高得点	上位1位	高得点能力の活かし方
	高得点	上位2位	
	低得点	下位1位	
	低得点	下位2位	
他者 対応 能力	高得点	上位1位	低得点だった能力の向上策
	高得点	上位2位	
	低得点	下位1位	
	低得点	下位2位	
社会性	高得点	上位1位	
	高得点	上位2位	
	低得点	下位1位	
	低得点	下位2位	
精神性	高得点	上位1位	
	高得点	上位2位	
	低得点	下位1位	
	低得点	下位2位	

2 あなたの人間力(EQ)にどのような傾向があるかを、「総合判定」に着目してあなたが感じたことを記入しましょう。

(左上：表)

EQは、4つの領域、10の能力群、50の個別能力から構成され、検査結果を点数化する。50を標準とし、それより高得点だと優れている（長所）、低得点だと改善すべき点として、見える化し個人の成長目標とする。

(右下：自己分析表)

EQの結果をもとに、4つの領域それぞれに高得点上位2項目、下位2項目を明記し、高得点能力の活かし方、低得点能力の向上策を面談して目標を立てて実習に臨むようにしている。

企業・団体名	一般社団法人 プラスチック循環利用協会
プログラム名	出前授業「プラスチックのリサイクルに係る講義、学習行動と実験」
活動の内容（概要） 300字	<ul style="list-style-type: none"> 学校(主に小学校、中学校)生徒、学生にプラスチックおよびそのリサイクルに係る「出前授業」の提供 内容 プラスチックとそのリサイクルに係る講義(原油⇒原料⇒製品⇒廃棄⇒リサイクル)、学習行動(3Rカードゲーム、プラスチックイズ)と実験(発泡スチロール減容化と再発泡、プラスチックの比重選別、ペットボトル細片による糸づくり、PSカップによるキーホルダーづくり) 当協会の「出前授業」は、講師が見せるのではなく、生徒、学生が自ら能動的に学習や実験に参加すること、また全員あるいは班員が協力して行うことを特色としている。



3Rカードゲーム(IMG_プラスチック循環協-1)(足立区立栗島小学校)2013/10/17
 学校授業でゴミ分別を勉強し、3R(リデュース、リユース、リサイクル)という語があることは知っていても、日常生活の中でどれがそれにあたるか理解できていないことが多い。3Rカードゲームは、受講者全員にいろいろな内容のカードを配り、組となるカード(例えば「小さくなった服」と「弟、妹が着る」のカード)を有する受講者に出てきてもらい、そのカード内容が3Rのいずれにあたるか考えてもらうものである。



発泡スチロールリサイクル実験(IMG_プラスチック循環協-2)
 足立区立川南小学校
 (2013/10/30)
 発泡スチロールが溶融した液体にイソノールを加えて発泡スチロール原料(ポリスチレン)を取り出す実験の様子。
 透明な液体にイソノールを加えると白色固形物が突然出現する。この現象を目の前にして子ども達は驚きの声をあげる。この際に、「これは何なんだろうか」、「どうして出てきたのだろうか」と問いかけると、皆懸命に考える。

企業・団体名	株式会社モチベーションアカデミア	
プログラム名	ポータブルスキル授業	
活動の内容（概要）	<p>ポータブルスキル授業では、「ポータブルスキル＝持ち運び可能な能力」を授業で学ぶ。ポータブルスキルは大きく分けて次の3つの力に分かれている。第一に「原因分析」や「計画立案」を学ぶ「対課題力」、第二に自分のモチベーションやストレスをコントロールする「対自分力」、第三にコミュニケーション能力を学ぶ「対人力」がある。これは大学受験以降もずっと必要になる能力のこと。授業では、中学1年生から高校3年生まで混合で4～5人のグループを作り、テーマ毎に設計されたグループワークに取り組んでもらう。また、授業はビジネスの一線で活躍している社会人講師が指導している。</p>	

(写真なし)

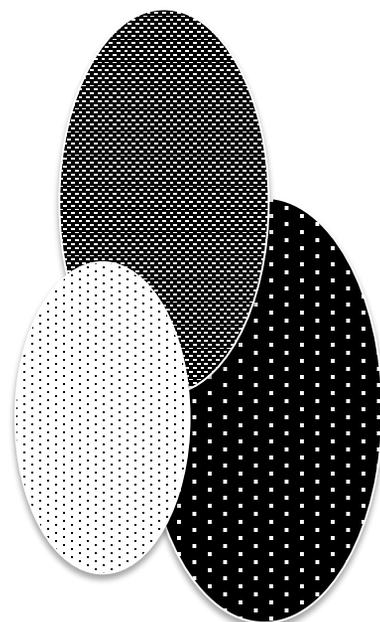
(写真なし)

企業・団体名	株式会社 米川兄弟社	
プログラム名	プロジェクト BOAT	
活動の内容（概要）	<p>大学生の社会人基礎力育成を目的としている。</p> <p>研修で知識・スキルをインプットするだけではなく、学んだ社会人基礎力を効果的に定着させるために「企業インターンシップ」「家庭教師」といった、自身のキャリアに応じて選択できる2つのアウトプットの機会を提供している。</p> <p>また、この機会を与えることで、社会人基礎力の必要性を学生に気付かせ、更なる成長のキッカケを作ることも狙いとしている。そのため、学生をアウトプットの場へ送り出した後も長期的にフォローし、常に「出来た点」「出来なかった点」「出来るようになるにはどうすれば良いか」を問いかけ、インプットとアウトプットを繰り返し、成長を促す支援を行っている。</p>	
	<p>仕事で遊ぶテーマパーク BOAT</p> <p>企業インターン参加前の社会人基礎力インプット研修の様子。</p> <p>この後、5-6名のチームを組んで、ワークショップを実施。</p>	
	<p>家庭教師の BOAT</p> <p>大学生（家庭教師）への社会人基礎力インプット研修の様子。</p> <p>この後、指導現場をシミュレーションして、子どもたちの基礎力を育成するロールプレイングを実施。</p>	

企業・団体名	リエゾン・デートル	
プログラム名	グローバル人材育成 ワークショップ 「世界ビトを育てよう！」	
活動の内容（概要）	<p>グローバル人材の育成を目的としたキャリア教育ワークショップを企画・実施しています。ワークショップでは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働くこととは（個人の能力を生かし職業へ繋げることの意義） ・日本のグローバル化の現状（グローバル人材の必要性） ・世界で働く人の具体的な事例（動画視聴） ・世界では働く事とは（文化、習慣の違い等） ・グローバル人材に必要な資質（気づき、今から出来ること） <p>を説明し将来に向けた職業感について対象の学生に情報提供を行っている。グローバル人材育成には職業観を持ち始める小学校低学年・中学生から意識づけを行うことが重要であり、「世界ビトを育てよう」ワークショップでは世界で活躍する人材のインタビュー動画を中心に具体例を挙げて身近に「世界」を感じるための情報提供を小学校低学年から大学生を対象に、時には保護者を交えて行っている。</p>	
	<p>2012年1月 私立戸板中学校3年生対象ワークショップ キャリア教育の一貫としてグローバルな視点で職業を考えることをテーマに実施。女子学生の皆さんに親和性の高いベトナムで働く幼稚園の教諭を動画で紹介し、異文化で働く事について掘り下げて考えた。</p>	
	<p>2013年2月 東京都中野区立江原小学校6年生対象ワークショップ</p> <p>※卒業を間近に控えた時期でのグローバルな視点でのキャリア教育として実施。高く評価を頂き2014年2月にも開催予定。</p>	

第4回キャリア教育アワード エントリー事例

地域企業協働の部



企業・団体名	アイシン精機株式会社・アイシングループ	
プログラム名	アイシン環境学習プログラム	
活動の内容（概要）	<p>小学4～6年生を対象に1年間から半年間、森・水辺・くらし・産業の4つのテーマから選んでもらい、学校の授業計画と合わせながら、それぞれの学校での環境学習をサポート。「講座（座学）またはフィールドワーク（体験）」、ワークショップ（愛・シンパシーワークショップ）、環境活動（エコアクション）、学習発表会（エコトークセッション）という一連のプログラムを通じて、児童たちは命の大切さや相手の立場に立って考えることを学ぶ。そして課題解決に向けた行動を学年みんなで起こしていくことで、何かのために学び、行動することの楽しさや、自己の可能性に気づき、社会人基礎力を身につけていく。</p>	
	<p>環境学習で学んだこと、感じたことを基に自分でエコアクションを考え、グループで取組む。給食を残さず、食べきったときの様子。</p>	
	<p>エコトークセッションで、劇を通じて活動内容を発表している様子。</p>	

企業・団体名	一般社団法人 鴨川青年会議所	
プログラム名	情熱ハローワーク	
活動の内容（概要）	<p>中学校のキャリア教育の出発点として、1年生を対象とした2単位時間の出前授業。青年会議所に所属するさまざまな職種の社会人が中学校に訪問して授業を展開（各学級ごとに3～4名ずつ）。ワークショップ（仕事マップ作り）やトークセッション（仕事に就いた経緯や働くことの意義について）を織り交ぜ、生徒が職業や将来について真剣に考える機会を提供している。平成23年度から活動を開始し、これまでに市内3中学校の約750名の生徒が授業に参加している。地元で働く人たちとの交流を通して、中学生が地域のよさや素晴らしさに気づき、郷土を愛する心を養うことも意図した活動となっている。</p>	
	<p>ワークショップ 仕事マップ作りの様子。自分が興味あることを3つに絞り（付箋に書く）、お仕事マップの中の5つのカテゴリーのどこに位置するかを考え、貼り付ける。その後、自分の興味・関心のあることはどんな職業につながっているのかを検討する。講師や会議所のサポーターのアドバイスを受けながら、生徒たちはマップ作りに取り組んだ。</p>	
	<p>トークセッション 働くことの意義や仕事に対する思いを熱く語る講師。普段は見たり聞いたりすることのできない専門的なことも……。生徒から講師に様々な質問が出され、仕事に対する興味・関心の高まりが感じられた。</p>	

企業・団体名	かわさきマイスター友の会
プログラム名	川崎市内最高峰の匠が教える「ものづくり」の素晴らしさと 子供達の秘めたる可能性
活動の内容（概要）	川崎市では極めて優れた技術・技能を発揮して、産業の発展や市民生活を支える現役の技術・技能職者を川崎市内最高峰の匠「かわさきマイスター」に認定し、匠の技術の奨励・継承・後継者育成の活動や経済振興の取組を行っており、59職種77名の方々を認定している。平均年齢69歳、50年以上にわたって一つの職種に従事してきた世界クラス・日本トップクラスの技能を保持する「ものづくり」の達人が学校での「ものづくり」体験や製作実演等を通じて、日本の発展を支えてきた「ものづくり」を職業選択の一つとして意識付けするとともに、マイスターの様々な職種や多様な経歴を触れ合いを通して伝えることにより、子供達の秘めたる可能性を引き出している。



平成 25 年 10 月 18 日（金）
川崎市立梶ヶ谷小学校 6 年生
120 名を対象に実施した総合学
習体験教室にて、かわさきマイ
スターで食品サンプルの匠である
田中司好氏がレタス製作の体験
を行っている様子。

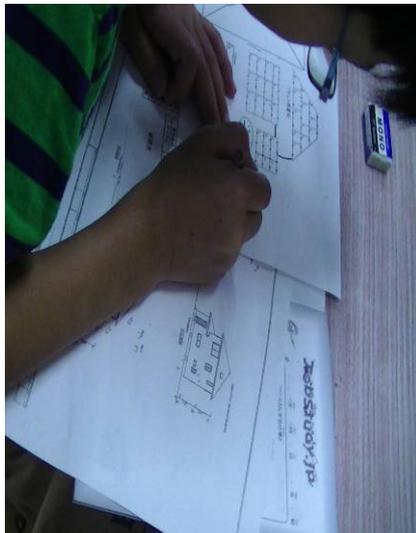
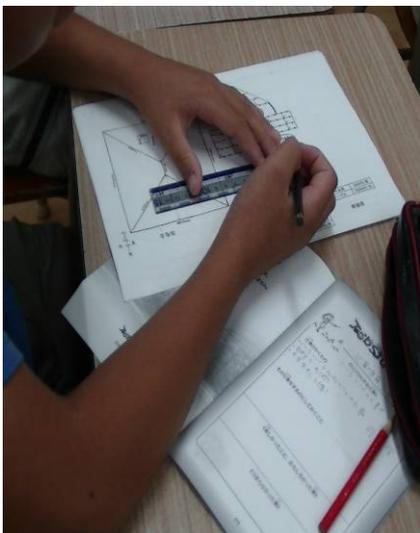


平成 25 年 11 月 19 日（火）
川崎市立菅中学校 1 年生 123 名
を対象に実施した技能職体験学
習にて、かわさきマイスターでフ
ラワーアレンジメントの匠であ
る都倉正明氏がフラワーアレン
ジメントの製作指導を行っている
様子。

企業・団体名	株式会社 Campanula（カンパニユラ）
プログラム名	産・学・NPO がスクラムを組んだ ～Jobstudy.jp プログラム～
活動の内容（概要）	<ul style="list-style-type: none"> ◆(株)Campanula（カンパニユラ）がコーディネートする体験型キャリア教育プログラム。学校と企業の橋渡しを行い、地域全体でキャリア教育を実施。 ◆教育的視点を重視しつつ、参加企業の社員は学校での教育（授業・指導）を行う前に「仕事の社会的役割、仕事の必要性、その仕事をするのに必要なこと（その仕事に就くために今の自分（小学生・中学生）が勉強しておくべきこと）」を説明できるよう事前研修を受講。その後学校指定の教育実施日に、学校へ出向き授業を行う。これらにより当該企業の社員教育（研修）という側面も併せもつ。 ◆子どもは体験内容が記録できる専用のノートを持ちまわり、企業が説明する内容や実施後の感想をノートに記録。職業体験日を授業参観日に合わせことを推奨。子どもや企業の社員だけでなく、先生や保護者も一緒に職業について学べるキャリア教育プログラム。



株式会社ヒューマンライフ
 中学 1 年生を対象。コールセンター業務を体験指導。実際の電話機を教室に持ち込み、お客様側、スタッフに分かれ電話対応をシミュレーションする。電話の内容は企業がシナリオを作成。お客様に商品を注文してもらい、名前を「権堂です。権利の権にお堂の堂です。」のように漢字を分けて説明し名乗る。子ども達は仕事の内容だけでなく、国語力も必要であることを学ぶ。



創伸テクニカルサービス株式会社
 小学校 6 年生を対象。ソーラーパネルの配置と費用計算を体験指導。企業が簡易的な設計図を用意。屋根の形を参考にパネルの配置と費用の計算方法を簡単に説明。その後、子ども達が自由に設計図へ配置するパネルを書き込んでいく。設計図には方位が記載。この方位はあえて説明せず、子どもに気づかせる。子ども達は、この仕事には方位、図形の組み合わせ、計算力などの知識が必要であることを気づかせる。

企業・団体名	NPO 法人 次世代育成フォーラム・リスタ
プログラム名	つばさクラブ
活動の内容（概要）	小中学生を対象に「今後 10 年以内に必要とされる技術や知見」というテーマで、様々な領域のプロを講師に招き、体験型の授業をおこなっている。最近ではグローバルコミュニケーション力育成を目的としたプログラムが特徴的。英語が話せない日本の小学生と、日本語が話せない外国の子どもとを混在させ、スポーツを通じて言語の壁を超えたコミュニケーションを生み出す試みをおこなった。また、イノベーションを生み出す環境は経済・経営教育にあると仮定し、グローバル経済の理解に繋がる講座をおこなった。今後はエネルギー問題や食料問題など、現在大きな転換期を迎えている素材をテーマに新しい視点の講座を実施する予定。



つばさクラブ「世界の経済教室」の様子。小学校1年生から6年生まで、学年を超えて日本と外国のお金の価値の違いについて体験的に学ぶ。
講師はファイナンシャルプランナーと外国人大学教師。
世界の中の日本という観点で講座を企画した。



つばさクラブ「大使館でオーストラリアンフットボールを体験しよう」のようす。大使館職員のファミリーと日本の子どもたちが、フットボールを通じて、コミュニケーションを図る試み。将来、海外で活躍する場面が増える日本の子どもたちに必要なもの伝えたいという観点で企画した。

企業・団体名	ジョブスタディ
プログラム名	企業の人事担当者が手作りで創る異業種合同セミナー 「ジョブスタディ」
活動の内容（概要）	<p>「ジョブスタディ」は、企業側も学生に正面からぶつかり、「早期離職問題」を解決していこうという想いで、2005年に誕生、「本音」と「手作り」というコンセプトのもと、企業と学生が「働く意味」を語り合う双方向のコミュニケーションを実現してきた。</p> <p>スタート後も時代背景に応じて新しい企画を立案、2011年からは、学生の視野を中堅・中小企業へも広げてもらい、自身の価値観に合った企業選択をしてもらおうと、経済産業省近畿経済産業局などと協力し「ジョブスタディ・コラボ・かんさい」を展開。2012年からはエリアを拡大し、経済産業省関東経済産業局などと協力して「ジョブスタディ・コラボ・かんとう」を開始している。</p>



企業内開催のパネルディスカッションの様子



産官学連携プログラムでのグループワークの様子

企業・団体名	中高生夢チャレンジ大学実行委員会
プログラム名	中高生夢チャレンジ大学
活動の内容（概要）	福岡の大人たちが自分たちの手で力強い福岡の未来をつくろうと、福岡の企業やNPO、自治体や学校が協力して2012年にスタート。中高生は地元・福岡で夢にチャレンジし続ける“カッコイイ大人”の講師や、ちょっと先輩の福岡の大学に通う学生に手伝ってもらいながら、講義やワークショップを通して自分の創造力を発見する。福岡市の成長分野を講座に設定することで、福岡にあった次世代の人材づくりを地域全体で行うプロジェクト。



8月9日（金）～10日（日）
 宿泊研修。1日目は初めて会う仲間ばかりで緊張している中、大学生スタッフの導きで、仮想の旅を通して創造力を見つけるワークショップに挑戦。2日目は発見した自分の創造力を活かし、仲間と一緒に未来のまちをレゴブロックを使って表現した。



9月29日（日）の閉校式
 ふりかえりワークで「未来の自分への誓い」を立て、修了証に書き込み。夢チャレでの経験や講師の言葉、仲間とのつながりで自己肯定力をつけ、仲間と一緒に夢への第一歩を踏み出した。

企業・団体名	新居浜商店街連盟・高校生ボランティアサークル May
プログラム名	第2回 交流一大体験ゾーン in 新居浜 ～私たちが創る未来へ～
活動の内容（概要）	<p>現役高校生たちが、キャリア教育について、自ら考え、自ら動き、地域の専門家の方々、地域の企業、団体、行政等のご協力を得て、幼児から社会人まで幅広い年代が各々キャリアアップ出来る場を企画し提供をする。そして、自らもキャリアアップを目指す。</p> <p>一過性ではなく、次世代に繋げる為に日々活動中。</p>



イベントのなかで地元高校生達による書道パフォーマンスや吹奏楽の演奏、また、親子で挑戦出来るチャレンジコーナー、その他には飲食、手作り市、高校生カフェ、こどもショップ、チャリティーフリーマーケット等の要素も織り交ぜ、気軽にキャリアアップの場に足を運んでいただけるように考えた。感動、挑戦、発見の場になった。



生花体験、科学実験体験、押し花体験、スイーツデコ体験、トールペイント体験、クラフト体験、エコバック体験、針金細工体験、ネイル体験、リトミック体験、工作体験、リングボール体験、環境体験、こどもお店体験など、様々な専門家のもと、幼児から社会人まで、幅広い年齢層に体験。

企業・団体名	西尾信用金庫
プログラム名	「愛知県ハイスクール・起業家コンテスト」
活動の内容（概要）	<p>将来を担う高校生に実際のビジネスに携わる機会を提供し、起業家精神の醸成及びキャリア教育の推進、更に地域経済の活性化を図るため、「西三河ハイスクール・起業家コンテスト」を開催。コンテスト参加高校は生徒5名～20名程度のチームを作り、仮想企業としてチーム内に社長・部長等の役職を設置。5ヶ月間の事業活動期間において、事業計画の策定・商品開発・製造・広告・販売・決算に至るまでを高校生が自ら考えて行った。</p> <p>また事業活動期間終了後は報告書を提出すると共に、事業活動の成果を発表する場として「審査発表会」を開催。各チームはそれぞれの取組内容や工夫した点、課題等を発表し、その内容について、コメンテーターとして招聘した地元企業経営者が、経営者の観点からアドバイスを行った。審査については、地域金融やマーケティングを専門とした大学教授等の専門家が第三者の観点から厳正な審査を実施。優れた取組みに対して表彰を行った。</p> <p>平成25年度は、「第23回全国産業教育フェア 愛知大会」の一事業として「愛知県ハイスクール・起業家コンテスト」を同大会実行委員会（愛知県教育委員会）と両主催にて、対象を愛知県全域に拡大し開催した。</p>



地元の祭事で販売活動を行なっている様子。



審査発表会で自ら取り組んできた成果を発表している様子。

企業・団体名	特定非営利活動法人 鳳雛塾
プログラム名	出店・製造販売体験プログラム
活動の内容（概要）	市場調査から商品仕入れ、値付け、広報活動、事業計画作成、商売実践、収支決算に至るまでの一連の企業活動をケース教材等を用いて学びながら、地元商店街や佐賀駅等での販売体験活動を実施する。小学生向けプログラムでは、出店販売体験活動（キッズマーケット）の実施が主となるが、中学生や高校生向けのプログラムでは、より専門的な知識の習得と「商品開発」（＝企画）を付加した教育メニューとなっており、マーケティングや商品企画の考案、協力企業の指導によるオリジナル商品の開発、就業体験（インターンシップ）等も行っている。



小学校での販売体験活動の様子。次年度販売体験活動をする下級生はお客さんとして体験をする。普段なかなか声を上げない児童もこの日ばかりは大きな声を出して「いらっしゃいませ」と呼び込みをする姿が見られる。店舗のレイアウトは児童達が考えたもので、テーブルクロスや籠を準備して工夫を凝らしている。



中学校での企業ヒアリングの様子。自分たちの取扱いたい商品、思いを企業に説明し、企業からアドバイスを頂く。自分たちの計画通りには進まない事も多く企業との打合せをしながら商品が決まっていく。企業へのアポイントの電話等も生徒自ら緊張しながら行う。

企業・団体名	株式会社 マイナビ
プログラム名	MY FUTURE CAMPUS
活動の内容（概要）	MY FUTURE CAMPUS(MFC)は高校、大学、企業、官公庁、NPO を繋ぎ、継続的なキャリア教育を可能にしたプログラム。プラットフォームとして、社会人や企業が授業を展開し、様々な環境から集まった大学1・2年および高校生が講義を受ける場の提供をしている。講義を受けた後、議論という形で自分の意見をアウトプットする事で授業を進めている。参加した生徒が社会に興味を持ち、就職活動を意識する前に、多くの社会人がどんな想いを持って働いているのかを知ることで日々の学生生活に主体的に取り組み、自分の将来を考えるきっかけを作る事を目的としている。



株式会社PLAN・DO・SEE提供のウエディングプランナー体験の講義の様子。まずはウエディングプランナーの仕事、仕事をする上で大切なことを講義していただいた。実際に結婚式の内容を提案する際に使用する、コンセプチュアルボードを作成、その後、チームごとにどのようなコンセプトでボードを作成したのかを発表し、企業の皆さんから講評いただいた。



幸せや感動を創る仕事をテーマに、その道のリーディングカンパニーである企業5社に仕事の上で、大切にしていることを講義いただきました。その後、「東京オリンピックに来る観光客をもてなすビジネス」という視点でディスカッションを行った。ビジネス案をチームごとに発表し、企業の方に講評いただいた。初めてグループディスカッションに参加する高校生も活発に発言している姿が印象的であった。

企業・団体名	一般社団法人宮城県情報サービス産業協会
プログラム名	IT 業界体験インターンシップ
活動の内容（概要）	当会会員企業の現役システムエンジニア（SE）による指導の下、実際に IT 企業で行われる情報システムの企画・設計・開発の模擬プロジェクトを推進し、IT 企業の実務をトータルに体験できる夏季 2 週間のインターンシップ。様々な学校から集う多様な学生によるチームでの共同プロジェクトの実践を通じ、IT 企業が採用の際に重視するコミュニケーション力、課題発掘力、チームワークなどの社会人基礎力を発揮し気づきを得られる点が最大の特徴。企業訪問による現役 SE との懇談会や、自己及びチームの成長を発表する成果発表会も実施。当地域で IT 企業を志望する学生必須のインターンシップとなっており、毎年多数の修了生が地域 IT 企業に就職している。



写真は平成 24 年度の講座の様子。約 30 名の学生が参加。異なる学校の学生がチームとなり、IT システムの企画設計を行う。それぞれの意見の違いや認識の相違を乗り越えながらシステムの要件として取りまとめ、お客様をはじめ皆様に説明できるシステム提案書を完成させる。



写真は平成 24 年度の成果発表会の一コマ。2 週間の成果や得られた気づきについて発表する。企業関係者など一般来場者からの質疑や講評も飛び交う。

～キャリア教育アワードのロゴが決定しました！～



この度、「キャリア教育アワード」のロゴマークが決定いたしました。「Career Education Award」の頭文字“CEA”の組み合わせにより出来ており、企業等で働く大人と子ども・若者との交流、そして両者の成長を表しています。「教育支援活動を通して成長する企業・団体」のシンボルとして、キャリア教育アワードを受賞された企業・団体に活用いただくとともに、キャリア教育に関する認知が広がることを期待しています。